



## きらら山荘

MBO実践支援センターのセミナー会場となっている「きらら山荘」の話です。

きらら山荘の正式名称は、関西セミナーハウス<修学院きらら山荘>。比叡山で千日回峰を行う行者さんが歩く雲母坂。京野菜を作る畑がたくさん残っている京都市内にあります。運営団体は、公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー。第二次世界大戦後にヨーロッパで始まったアカデミー運動の団体です。

日本では1960年に活動が始まりました。その理念は、「出あい」「はなしあい」「支えあい」の3つ。キリスト教の立場から、価値観の違いを乗り越え、社会の課題を解決しようという運動です。第二次世界大戦が作り出した社会的分断を克服する動きだったのでしょうか。その活動拠点として作られたのが、関西セミナーハウスです。開所は1967年。日本が自動車の貿易自由化を行った2年後です。当時、車の貿易自由化を行えば、日本の自動車産業は壊滅するといわれていた記憶があります。

余談です。松下幸之助が週休2日制を実行したのは1965年。欧米の企業と同じ条件で競争する、同じ労働時間でより高い生産性を実現する。このため、労働日を週5日として、土曜日は勉強にあてる。そう考えたそうです。

セミナーハウスを初めて利用したのは、1980年代。開業後20年以上経過していました。同じ職場の先輩が若いときに、何回も利用さ



中嶋哲夫の

「人事も歩けば」



▲きらら山荘にある能舞台「豊饗殿」

せていただいた場所とのことでした。そのときに聞いた話です。「これからは国際的に活躍できるリーダーが必要だ。そのリーダーたちには、欧米の文化と日本文化の素養が必要だ。それを身につける施設として作られた施設」「できた当時は、ナイフとフォークでしか食事を食べさせなかった」「日本文化を身につけるため能舞台や茶室、和室を作った」。

そんな施設なので、バラエティーに富む研修を組むことができます。私自身、生花、煎茶、ヨガなどを組み込んだ研修をやらせていただきました。

建設されて50年以上が経過し、世の中はグローバル化がどんどん進んでいます。日本の文化は、企業にとっても個人にとっても、競争力の源泉となり得ます。世界の人が学びたくなるような素養をもつ人材こそが、これからの時代の人材。改めてそう思います。

(MBO実践支援センター代表 大阪商業大学特任教授)